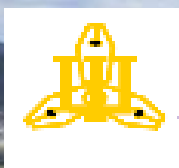


教育目標【自ら学び 生かす 心豊かな生徒の育成】



自分が好き、仲間が好き、ふるさとが好きな

平成30年

厚保中学校だより

4月号

第69回卒業証書授与式

美祢市立厚保中学校長 松岡秀樹

厳しかった冬の寒さも緩み、日に日に暖かさが増してきました。3月9日(金)には、本校で第69回卒業証書授与式が挙行されました。当日は、心配された雨もあがり、大きな影響もなく、無事に式を終えることができました。

式の中では、10名(男子5名、女子5名)の卒業生全員が、清々しさと頼もしさを感じさせる、立派な態度で卒業証書を受け取りました。そして卒業生も在校生も懸命に歌を歌い、互いに感謝の気持ちを表していました。これには、ご臨席いただいた来賓の皆様からも、お褒めの言葉をいただきました。

最後に卒業生は、家族と手をつないで、在校生が作った花道を歩きました。



(写真左下) 今後、卒業生が自分の夢の実現に向けて、精一杯頑張ることを切に願う次第です。

なお、卒業式の前日には、「厚保地域交流ステーション」の皆様が中心になって、花を生けてくださいました。

(写真右上)

皆様には、行事のたびに花を生けていただき、たいへん助かっています。今回、来ていただいた方は、次のとおりです。



倉重和子 様、大橋瑞枝 様、渡辺洋子 様、松永ヒロ子 様、谷川セツ子 様

あの日を忘れない 3.11



7年前の3月11日は、私たち日本人が忘れてはいけない日です。日本は過去に、何度も大きな地震の被害を受けてきました。そのたびに、私たちの祖先は復興に取り組み、力強く立ち直ってきました。

ところで現在、「南海トラフ大地震」が近い将来、極めて高い確率で起きると言われています。だから私たちは、あの東日本大震災を忘れないで教訓として生かし、被害を最小限に食い止めなければならないのです。

生徒たちは、3月1日の全校集会でそのことを学び(写真右)、1か月間、胸にバッジ(図左)を付けて、災害に強い社会づくりに向けて、進んでいく意識を高めることにしました。



学校関係者からのご意見

今年度も、12月末に生徒、保護者、教員、地域住民を対象に、学校の教育活動に対するアンケートを行いました。それを分析して学校関係者に説明し、ご意見を伺いました。その一部を紹介いたします。なお、学校評価につきましては、学校のホームページに掲載予定です。

学習指導について

- ・「学びガイド」の成果が授業の中で生きている。
- ・研究授業など計画的に進められ、その力が授業参観したときにも現れている。
- ・生徒一人ひとりが真剣に考え、的確な意見を出し、一つの結論を見出す対話学習はとても良いと思います。それを見守る先生もよかったです。

生徒指導について

- ・全般的にあいさつの評価が高い。生徒のすばらしさを感じる。
- ・姿勢が生徒・保護者・教師の中でワースト3に入っているが、授業参観で生徒の様子を見ると、そんなに悪いとは思わない。良いほうだと思います。
- ・ゲー・ピタ・ピンは感激しました。今後も指導を続けてほしいと思います。
- ・今までの生徒指導は子どもたちにしっかり伝わっています。
- ・読まない生徒を読書へ向かわせるために、幅広く柔軟な発想で指導をしたらどうでしょうか。（マンガも読書への入り口ではなからうか）

地域との連携について

- ・中学生が高齢者宅を訪問する行事があってもよいのでは。
- ・地域と連携してクリーン作戦などを実施し、地域貢献の取組もよくされています。
- ・地域人材活用ではまだいろいろな人がいらっしやと思います、また新しい体験も。
- ・登下校で自転車の並進をやや見かける。
- ・地域の方へのあいさつを、一人のときははずがしがってできない子がいる。
- ・地域の方々の学校貢献はもっと広く多くの人に知らせてほしい。また、生徒の中に、地域の方々への感謝の気持ちを育ててほしい。

今月のNIE

3月12日(月)の毎日新聞「余録」に、方言について書かれた記事がありました。東日本大震災の被災地に届いたメッセージの中に「お気張いやったもんせ 始良(あいら:鹿児島)より」という方言のメッセージがあったそうです。難しい方言にもかかわらず「優しく、力強く心に響く」と筆者は書いています。今回のお題は「あなたが好きなふるさとの方言」です。

好きな方言 1年 木下 海徳 くん

「面白いっちゃ、本当に。」

山口県では広島弁に似た言葉を使っています。その中でも、「～ちゃ」とつくものが、親しみがあっていいなと思います。「かわいicchya。」の一言でその場が和むので、いろいろな場面で使えるなと思っています。学校の中では、関西弁も聞こえてきて、毎日が楽しいっちゃ。